

16

1994.2

LET'S PLAY

Indiaca



Japan Indiaca Association ● 日本インディアカ協会

報告

インディアカ ヨーロッパ研修旅行

期間●1993年7月16日(金)～25日(日) 8泊10日 訪問先●ドイツ連邦共和国、オランダ

■ 旅 程

- 7月16日：成田空港出発。ルフトハンザドイツ航空711便にてフランクフルトを経由してミュンヘン到着。
- 7月17日：インゴルシュタットで親善試合3ゲーム2勝1敗。夜、ハインツカールクラウス氏宅にて歓迎パーティー。
- 7月18日：ドイツのベスト3のチームを含めて6チームと対戦し、0勝6敗の成績(ネットの高さに苦労した)ゲーム終了後、昼食会に招待され別れを惜しんだ。パーティー終了後、中世の都市ローテンブルグへ向かう。
- 7月19日：ネッカー川のほとりにある大学都市ハイデルベルグで古城を見学。夜は、教会で開かれたバッハの演奏会に出席。
- 7月20日：ディレンブルグでインディアカの父カールハンスクロン博士を表敬訪問し、インディアカの歴史や、用具の変遷、博士のインディアカに対する情熱を肌で直接感じ、感激的な一時を過ごす。
- 7月21日：フランクフルト発ルフトハンザ航空4262便にてアムステルダムへ出発。
- 7月22日：夕方ハーグに入り、夜ワールドゲームズの開会式に参加。
- 7月23日：ハーグに滞在し各種目の大会を視察。
- 7月24日：アムステルダムを出発し帰国。
- 7月25日：成田着。



- 江口正巳 (愛知県インディアカ協会理事長)
(日本インディアカ協会専門委員)
- 瀬戸章嘉 (大阪インディアカ協会理事長)
(日本インディアカ協会専門委員)
- 柴 宏一 (埼玉県インディアカ協会理事長)
(日本インディアカ協会専門委員)
- 田口久男 (日本インディアカ協会公認指導審判員・千葉県所属)
- 星 明 (日本インディアカ協会公認指導審判員・千葉県所属)
- 西田真弓 (日本インディアカ協会公認指導審判員・大阪府所属)
- 大家誉子 (日本インディアカ協会公認指導審判員・大阪府所属)
- 林 恒男 (日本インディアカ協会公認指導審判員・和歌山県所属)
- 吉田昭子 (株式会社レクスボ)
- 押塚登貴夫 (日本インディアカ協会理事長)

■ 企画の経緯

日本ワールドゲームズ協会から、第3回ワールドゲームズハーグ大会の視察団メンバーに日本インディアカ協会が選ばれた。かねてから関心の高かったこの大会は、ぜひ視察したいと願っていた。そしてこの機会にドイツのインディアカの実情と親睦・交流のゲームをしたいとの要望も指導者からあがり、ハーグ大会の視察とインディアカの国際交流、さらには、インディアカの創作者カールハンスクロン氏を表敬訪問する3つの目的を持った旅行を企画し実行した。

■ ドイツのインディアカの実情

- 現在ドイツでは、インディアカ協会の会員は約20,000名おり、それぞれのクラブに登録し、活動している。スポーツ愛好者は、必ず登録するシステムになっており数の掌握はしやすくなっているし正確さもある。
- 組織的には、各州に体操連盟(生涯スポーツ協会のようなもの)があり、その中にインディアカ協会(部)が位置付けられており、そこに各インディアカクラブが所属している。
- ジュニアから高齢者まで幅広い層の人達がインディアカを愛好しているが、中心的には20代～30代の男女ということである。
- 大会は、州の体操連盟が開催するスポーツ大会の中で他の種目と一緒に行われるものと、インディアカ○○CUP争奪戦というような独自の大会もある。
- 技術レベルは、トップクラスも含め日本と同じ位と考えていいと思う。

＜ルールの違い＞

- ネットの高さ
男子、女子、混合：225cm
40歳以上 215cm
14歳以下 200cm
- コートの広さ
16m×6.1m
- ゲーム人数
5名対5名(4名でも可) 前列3名後列2名、1チーム7名まで
- 後列の攻撃はアタックラインを使用する
- ネットプレーの摘要はない(ネットにかかったボールは続けて打てない)
- サービスのレット(ネットイン)は認めない
- 両手打ちは認められない
- 1度交替するとそのセットには出場できない
- その他(大きな違いではないので省略する)



■カールハンス・クローン氏との会談

クローン氏は、ドイツではインディアカの父と呼ばれ、尊敬されている83歳になる紳士である。

氏がインディアカ（インディアカの前身であるベテカ）と初めて出会ったブラジル リオデジャネイロの海岸の話、その時の用具が美しい鳥が飛んでいるように見え、我を忘れて見入ってしまったという。

また、インディアカ用具の変遷について実物を見せながらの説明があった。

日本での普及について心から感謝し、今後のますますの発展を期待する旨の言葉があった。

■今後のドイツとのインディアカ交流について

インディアカ発祥の地、ドイツとの交流の第一歩を記したので、この糸口を大切に今後定期的な交流を考える時期に来ていると感じました。例えば、1年目はドイツチームを日本に招き各地で親善試合や交流会をもち、相互理解を深める。

2年目は日本チームがドイツを訪問し、ドイツ各地に於いて親善試合（場合によっては、ドイツ国内の大会に参加も可能）や交流会等を通じ相互理解と友情を深める。

ルールの違いは相互交流を続けて行く中で、日本とドイツで考えていけば良いと思います。これを実現するためには、いくつかの課題を解決しなければなりません、前向きに努力したいと考えます。

幸い、ドイツ連邦のインディアカ協会の中心人物である、ハインツ・カール・クラウス氏とも知合うことができ今後の交流に大きな期待が寄せられています。

■第3回ワールドゲームズ ハーグ大会

オリンピック種目以外の競技の育成を目的として、ナショナルリズムむき出しのオリンピック大会への反省から始まり、4年に一度、オリンピックの翌年に開催されるスポーツ大会「ワールドゲームズ」が、7月22日からオランダのハーグ市で開かれ、世界76ヶ国から3,000人のトップアスリートが参加した。我々インディアカグループも3日間いろいろなゲームを視察した。

ワールドゲームズの真髄は、表彰式に象徴される。競技を行った個人の業績を讃えるという精神が貫かれているからだ。国旗の掲揚や国歌の演奏はない。あるのは、金、銀、銅のメダルと花束の授与である。そして、ワールドゲームズ旗の掲揚とワールドゲームズ讃歌の演奏で、上位入賞者の栄誉を讃える。あくまでも、自主参加した「個人」に敬意を表するという姿勢が、世界のスポーツマンに支持されている理由であろう。

【実施競技】

●ボディビル ●ボウリング ●キャスティング ●ファウストボール ●フィールドアーチェリー ●フィンスイミング ●空手道 ●ベタング ●コーフボール ●テコンドウ ●ライフセービング ●ネットボール ●ラケットボール ●サンボ ●パワーリフティング ●ローラーホッケー ●ビーチバレーボール ●アートローラースケート ●タンブリン ●アクロバット体操 ●綱引き(男子) ●水上スキー ●トランボルリン ●トラリアスロン

【公開競技】

●合気道 ●綱引き ●ボルテイング ●ヘアフット水上スキー

※第5回大会（2001年）の開催候補地として関西の都市が名乗りを上げようとしており、開催が実現した際は（インディアカ）も種目として実施されるよう積極的に働きかけたい。

（押塚登貴夫）



楽しい交流試合を経験

田口久男

7月16日成田空港を出発した私達はインディアカ発祥の国ドイツへ向かった。翌日、インゴルスタットに移動してドイツチームとの試合に不安と期待を交錯させながら会場の体育館に入った。チーム紹介の後ウォーミングアップをしてからドイツチームとの試合に望んだ。ルールの違い（ネットの高さ225cm、コート長さ16m、5人制等）にもかかわらず日本チームは大健闘だった。2日目は全員参加して2チームを編成、ドイツのトップレベルのチームと対戦し全試合とも善戦して楽しい交流試合を終了した。5日目に私達はインディアカの考案者カールハンス・クローン博士ご夫妻との会見があり、その中で「ブラジルの若者達が羽根の付いたボールを手で打ち合っているのを見た時、これをレクリエーションスポーツとして普及させようと考えた」と言う言葉が印象的だった。

オランダでは、ワールドゲームズの開会式と数種類のゲームやスポーツ施設を視察できた。今回、インディアカの一愛好者としてヨーロッパ研修旅行に参加する機会を得て、生涯スポーツとしてのインディアカの素晴らしさを再認識し、今後の普及活動に生かしていきたいと思った。



ドイツのインディアカ

江口正巳

私にとって、初めてのドイツ、オランダの旅。全国各地から集った一行10名は7月16日午後、ドイツへと成田を飛び立った。17日、18日の2日間インゴルスタットで、ドイツインディアカトーナメント大会へ参加。どのような場所で、どのような方法で、インディアカが行われているかが、いちばん興味があった。

試合はプレイヤー1チーム5名、ネットの高さも高く、非常に苦戦、試合方法はセット試合（1セット25点先取）で行われた。日本チームも2日間にわたって大会に出場したが、成績はあまりばつとせず、特に男子のチームとの試合は大男の前にさんざんな結果に終わった。



カールハンス・クローン夫妻を囲んで

今回の研修旅行で、私の最大の楽しみは、インディアカの考案者のカールハンス・クローン先生との会見。7月20日、ディレンブルグにて、先生夫妻と昼食をともにし懇談する。85歳と思えぬ若さで、約60年前、ブラジルでのベテカとの出会いから、現在のインディアカ考案までを語っていただき感激。ともにカメラにおさまり、色紙にサインまでいただき、いい記念となった。21日午後、オランダ・アムステルダムへ。22、23日はハーグにて、第3回ワールドゲームズを視察し、25日帰国した。

私の見たドイツのインディアカは、みんなが気楽に楽しんでいる。審判もプレイヤーもそして施設もあまり気にしない。こういう事がいいことだと思った。

インディアカ大会 REPORT

ねんりんピック'93京都 全国シルバー インディアカ大会

京都府インディアカ協会

再び大会制覇の夢と血がないまぜに沸騰し、まだ見ぬ相手に闘志がみなぎり、目がらんと輝いた様子は、それは迫力あるものでした。

ところが対戦相手として現れたのが、女性チームであったことは何とも形容しがたい不思議な感動であったことでしょう。

耳になじんだ笛に始まり、ピストルの爆発音で大会終了。「ええ球が来たんでアタックと思って体が前に動いたとたんには彼女の姿が目に入ってなあ思わずゆるいフェイントになってしまったんや。気がついた時には試合は逆転負けやったわ」場内のあちこちでかつてのたくましくも雄々しい青年の優しい思いやりの心が、ぐちとも照れともとれる言葉として飛び交っておりまして。

しゃにむに働いて、高度成長の功労者となり遊ぶことも青春を彩る夢もなく、ただただ荷馬車を引いて走ってこられたシルバーの方々が、日本人の心のふるさと、華の都・秋の京都を舞台に、思う存分子供の頃のガキ大将にもどって心も浮き浮きとワンバク大会を楽しんでいたのだと思います。2日目にはネットをはさんでピッタリと足並そろえた見事なワルツを踊ってくださいました。

ただの一人の負傷者もなく終了した今大会の内容と進行は、当協会への期待感をもたせて下さった喜びに、目が熱くなってしまいました。

沖縄県インディアカ オープン'93

沖縄インディアカ協会

部で熱戦を繰り広げた。その結果、一般女子の部Aブロックはよもぎクラブ（宜野湾市）、Bブロックはひまわりクラブ（那覇市）、Cブロックは与儀公園噴水会A（那覇市）、Dブロックは与儀公園噴水会B（那覇市）、Eブロックはドンマイクラブ（那覇市）、Fブロックはめんどりはうす（宜野湾市）、GブロックはよもぎクラブC（宜野湾市）がそれぞれ優勝した。

今年は、協会創立10周年を記念して九州ブロックインディアカ大会を開催。九州地区の愛好者が一同に会し、なごやかな大会であった。が大会運営のあり方に多少のズレがあったことは残念であった。平成9年に全国スポレク祭沖縄県開催に向けて反省課題にしたい。

するするとネットの高さが下げられ、185cmの位置をキープした時、往年のスポーツで鍛えられインディアカにそのジャンプ力を生かしゆるぎない自信を維持してこられたシルバーマンの胸に、

'93オールジャパン レディース インディアカ 山形大会

山形県インディアカ協会
庄司永子

から1位～4位を選出、予選を2日目にも残し、多くのチームが2日目にも参加できるよう配慮しました。決勝に進めなかったチームには、空コートを開放し、交流試合で十分に汗を流せたことは、とても好評でした。

各グループの優勝、準優勝、第3位までのチームに賞状と全員の胸にメダルが授与され、特別賞や個人賞と多くの選手が賞を手にし、なごやかな表彰式になりました。

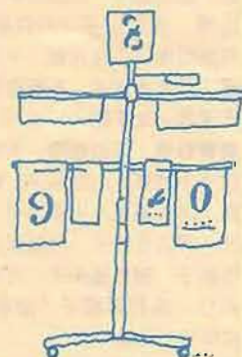
予想を上回って、参加者が280人とうれしい悲鳴をあげた前夜祭、2日目の昼食の山形の芋煮の味はいかがでしたか。



イモ煮の風景

大会を成功させようと、全員で頑張ってきましたが、準備不足が重なり、色々な面で皆様にご迷惑を掛けたことについては、大いに反省し、多くのことを学ばせていただきました。

参加いただきました皆様のファイトあふれるプレーに驚きと感激を覚え、そして友情をみつけた山形大会でした。



指導審判員一覧

1993. 5. 28～1993. 8. 6の取得
(順不同・敬称略)

- 北海道 道庁所在地 札幌市 面積一 総人口約
●青森県 道庁所在地 青森市 面積一 総人口約
●宮城県 道庁所在地 仙台市 面積一 総人口約
●秋田県 道庁所在地 秋田市 面積一 総人口約
●山形県 道庁所在地 山形市 面積一 総人口約
●福島県 道庁所在地 福島市 面積一 総人口約
●千葉県 道庁所在地 千葉市 面積一 総人口約
●東京都 道庁所在地 東京都庁 面積一 総人口約
●愛知県 道庁所在地 名古屋市 面積一 総人口約
●京都府 府庁所在地 京都市 面積一 総人口約
●大阪府 府庁所在地 大阪市 面積一 総人口約
●兵庫県 道庁所在地 神戸市 面積一 総人口約
●和歌山県 道庁所在地 和歌山市 面積一 総人口約

普及審判員一覽

1993. 5. 20～1993. 10. 4の取得
(順不同・敬称略)

- 北海道 阿部知司、上原祐子、杉野昌樹
山本真由、山本真子、渡辺雅典、藤澤陽
香、徳田真平、山口洋子、喜山裕也、沼野
正樹、飯沼淳子、三島雅晴子、岡野文雄
西尾隆幸、小堀英樹、小堀英治、川崎和
子、宮下智恵子、小嶋智紀、成瀬純子、黒
川博康、高倉寛
- 青森県 岸田重男、伊藤明彦、山口新一
他、中村有、山根美子、藤田孝男、小堀一
詞、津村謙吉、大橋啓子、大橋信孝、神江
千、藤山下孝子、佐藤泰幸、田代友貴、坂
田隆夫、櫻井浩史、佐藤孝介、菅原公
昭、星利直樹、石川健二、松浦清海、
堤潤朗、山本光男

- [illegible]

- [illegible]

[illegible]

●三重県

●京都府

●大阪府

[illegible]

● 兵庫県

● 奈良県

●和歌山県

[illegible]

●島根県

[illegible]

●山口県

●爱媛県

●福岡県

[illegible]

●長崎県

[illegible]

社団法人設立記念
日本インディアカ協会創立15周年記念

Japan Friendship Indiacca League Match

社団法人設立と創立15年を記念して標記大会を計画しております。今までにない新しいプログラム、アイディアをふんだんに盛り込んだ、ユニークな大会を考えています。会場も、スポーツのメッカ神宮の森にあるスポーツの殿堂「東京体育館」に決まりました。大会の詳細については、追って大会要項でお知らせいたします。

- 日時** 1994年5月14日(土) 9:30~16:30
■会場 「東京体育館」 JR総武線「千駄ヶ谷」駅前
■競技部門 ●一般女子の部 ●一般男子の部 ●一般男女混合の部
 ●シニア女子の部(45歳以上)
 ●シニア男女混合の部(女子45歳以上、男子50歳以上)
■参加資格 日本インディアカ協会会員で構成する5名~7名のチーム
 ※参加チーム数に制限があるので抽選の場合もある。
■参加費 1チーム5,000円
■競技方法 1セット25点の3セットマッチ(ラリーポイント制)
 16チームを1グループとする6グループ対抗の亀の甲リーグ戦
■表彰 優勝(16チーム) 準優勝(16チーム)
■主催 日本インディアカ協会
■後援 文部省・勲日本レクリエーション協会
■問い合わせ 日本インディアカ協会事務局
 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-17-11日本レクリエーションセンター内
 TEL03-3423-1241

インディアカ競技規則の改正

平成6年2月

1970年にインディアカが日本に紹介されて以来、着実な発展をみております。

この間、レクリエーションスポーツとして、公認レク指導者の活動種目として日本全国に紹介され、幸先良いスタートをきった。

また、近年「全国スポーツ・レクリエーション祭」の正式種目に採用されたことにより、行政をはじめ、広くスポーツ関係者の認知を得てきている。

現在、国レベルの大会が4回、ブロック別大会が6回、都道府県（加盟団体）別大会など数多くの大会が開催されている。

一方、「国民体育大会」のデモンストレーション種目として、山形県（平成4

年）、香川県（平成5年）、愛知県（平成6年）採用が決まっており、ルール・用具の充実、審判技術・大会運営方法の習得などインディアカ指導者、行政のスポーツ担当者から寄せられている。

さて、全国レベルの大会、ブロック別大会が充実するにつれて、親睦交流はもとより、日頃から抱えている問題点、疑問点のなげかけ、技術格差（審判技術、プレイ技術）、ルール解釈の違いによる混乱が浮き彫りになってきた。

誰でもが同じ条件で快適にプレイでき、健康づくりやふれあい、仲間づくりなど同じ目的・目標の中でスポーツすることが望ましいと考える。

このような現実を踏まえ、まず全国の

「指導審判員・認定員」の資質の向上を図り、各クラブ、協会等が抱えている課題や問題点について研究、討議をする機会が必要になってきた。

平成2年度に「指導審判員・認定員のための研修会」をスタートさせ、全国の現場の声を聞く機会をつくり（平成3年度からは、更新の際義務化）、そしてコーディネーターの役割を、各ブロックの中心的指導者である専門委員をお願いしてきた。

以来3年間、12回の研修会と5回の専門委員の会議を経て、日本インディアカ協会理事会の議を2度（平成5年10月19日、12月6日）経て決定されたものである。

「競技規則の改正」については、できるだけ規則は変えないで、字句の修正、誤解を招くような箇所への補填等にとどめたつもりである。

インディアカ競技規則の改正について（抜粋）

（平成6年4月1日より新規則実施）

現 行 規 則	新 規 則
第4条 チームの構成 第3項 競技者の義務 ～（2行省略） 競技者は、負傷の原因となるおそれのあるビン、腕輪、指輪、かぶりもの、その他金属製装飾具などを身につけて競技してはならない。	第4条 チームの構成 第3項 競技者の義務 ～（2行省略） 競技者は、腕輪、ビン、指輪などの装身具ほか、負傷の原因となるようなものや、自分のプレイが有利になるようなものを身につけてはならない。 競技者は、自分の責任において眼鏡をつけることができる。
第7条 副審 5.主審から要求がない場合は、主としてタッチネット、オーバーネットを監視して主審を補佐する。	第7条 副審 5.主審から要求がない場合は、主としてタッチネット、オーバーネット、アウトオブポジション、コートアウトを判断し、主審を補佐する。
第12条 競技の開始およびサービス 第1項 競技の開始 競技は、主審のプレイボールの吹笛によって開始し、最初のサービングチームのローテーションオーダーに示された後列右の競技者が、最初のサービスを行う。 第2項 サービス （～省略） 第3項 サービスの失敗 （～省略） （注）「アンダーハンドで打つ」とは、腕が体側に並行して振られていることを意味する。したがって、腕を水平に振るサイドハンド打ちなど、この規定どおりにおこなわれない打ち方で打ったときは、そのサービスは失敗となる。 第4項 サーバーの誤り （～省略） 第5項 第1セット以降のセットのサービス （～省略） 第6項 スクリーン （～省略）	第12条 競技の開始およびサービス 第1項 コートおよびサービス権の選択 競技の開始に先立ち、両チームの主将はジャンケンを行い、コートを選ぶか最初のサービス権をとるかを定める。ジャンケンに勝ったチームはそのいずれか一方を選択する。 第2項 競技の開始 競技は、主審のプレイボールの吹笛によって開始し、（以下現行第1項に同じ） 第3項 サービス サービスとは、後列右の競技者が、自コートのエンドラインの右半分の後方から、インディアカの台を手で持ち、もう一方の手のアンダーハンドで相手側コート内に打込むプレイをいう。 （注）「アンダーハンドで打つ」とは、腕が体側に並行して振られ、かつ床面に対して垂直方向に振られていることを意味する。したがって、腕を水平方向に振るサイドハンド打ちなど、この規定どおりに行われない打ち方で打ったときは、そのサービスは反則となる。 第4項 サービスの失敗 （～省略現行と同じ） 7.サーバーが第3項に定めるサービスの方法に反したサービスを行ったとき。 第5項 サービスオーダーの誤り （～省略） 第6項 第1セット以降のセットのサービス （～省略） 第7項 スクリーン （～省略）
第15条 タイムアウト 第4項 セット間のタイムアウト 試合中のセット間に、2分間のタイムアウトをおく。	第15条 タイムアウト 第4項 セット間のタイムアウト 競技のセット間に、3分間のタイムアウトをおく。

第16条 打球

第2項 打球許容部位

競技者は、インディアカをプレイするにあたっては、肘から先の部位を使用しなければならない。打ち方は片手、平手、手の甲、握りこぶしなどいずれの方法でもよい。

第3項 打球の条件

(～省略)

第5項 ホールディング

インディアカが競技者の手あるいは腕などに静止したときは、ホールディングしたものとみなす。

インディアカをすくったり、持上げたり、押しつけたり、あるいはインディアカにフォローするようなプレイは、ホールディングとみなす。

第17条 2人の競技者によるプレイ

第4項 ブロッキング

(～省略)

第18条 ネットに関係のあるプレイ

第5項 アウト・オブ・バウンズ

(～省略)

(注) ネットの外側をインディアカが通過した場合は、ネット(センターライン)の想像延長線上をインディアカが完全に通過したときに、アウト・オブ・バウンズとなる。

第19条 ポイントおよびサイドアウト

第2項 ポイントまたはサイドアウト

4. インディアカをひじより先の部位以外でプレイしたとき(ひじはグッド)。

6. (～省略)

第20条 制裁

付則

1. (省略)

2.

第21条 試合の没収

第16条 打球

第2項 打球許容部位

競技者は、インディアカをプレイするにあたっては、必ず片手の肘から先の部位を使用しなければならない。打ち方は、片手の平手、手の甲、握りこぶしなどいずれの方法でもよい。

第3項 打球の条件

競技者はインディアカを素手で打たなければならない。また、インディアカを静止させないで、明瞭に打たなければならない。

(注) 打球を有利にするようなテーピングなどを手に行うことは禁じられる。もし、手の傷害によってプレイが困難である場合にのみ、主審の許可をえて傷害の部位だけを保護する処置を認められる。

第5項 ホールディング

インディアカが競技者の手あるいは腕などに静止したときは、ホールディングしたものとみなす。

(注) インディアカをすくったり、持上げたり、押しつけたり、あるいはインディアカをフォローするようなプレイは、ホールディングとみなす。

第17条 2人の競技者によるプレイ

第4項 ブロッキング

(～省略)

ブロッキングに限り、両手が同時にインディアカに触れてもよい。

第18条 ネットに関係あるプレイ

第5項 アウト・オブ・バウンズ

(～省略)

インディアカがネットの外側のセンターライン想像延長線上を完全に通過した場合も、アウト・オブ・バウンズとなる。

(図は入れるが説明は省略)

第19条 ポイントおよびサイドアウト

第2項 ポイントまたはサイドアウト

4. インディアカをひじより先の部位以外でプレイしたとき(ひじはグッド)、および、両手で同時にプレイしたとき(ブロックを除く)。
6. サービス時に、サーバーを除く競技者がコート外に出ていたとき(コートアウト)。

第20条 制裁および罰則

(～省略)

第1項 制裁

1. (省略)

2. "

3. "

4. "

第2項 罰則 前項の粗暴な言動や喧噪にわたる言動があった場合は(～以下省略)。

第21条 競技の没収

※以下試合はすべて競技に統一する。

●基本的な吹笛の方法とハンドシグナルの追加●

■基本的な吹笛の方法

ホイッスルは1回1回力強く歯切れのよい吹き方をするのが大切であり、次の3種類の吹き分けをする。

①反則以外の判定でプレイを止める時の吹笛

・短く1回……………[—]

②競技者が反則を犯した時

・短く2回……………[— —]

③インディアカがデッドのときの指示

・短く1回、長く1回……………[— —————]



■ハンドシグナルと吹笛

①プレイボール

[HS] 主審: 腕を真上に上げ、手の平を記録席のほうに向ける。

[吹笛] 主審: [— —————]

②サービス開始

[HS] 主審: サービングチーム側の腕を横に上げ、手の平を上に向け肘をかるく曲げる。

[吹笛] 主審: [—]

③競技者のコートアウト

[HS] 主審・副審: 反則を犯したチーム側の腕を肘から垂直に立て、手の平をコートに向け、続けて手の甲を向ける。

④サーバーのサイドハンド

[HS] 主審: サービングチーム側の腕を伸ばし、肩を支点に横から前に45度の角度で1回振る。

⑤サーバーのフットフォールト

[HS] 主審: サービングチーム側の手で主審自身の足元を示し、体の前で線を1回引く。

⑥アウトオブポジション

[HS] 主審・副審: 反則を犯したチーム側の手で、手の平を下に向け円を1回描く。

⑦両手打ち

[HS] 主審: 人差し指と中指を立てて2を示す(ドリブルと同じ)。

われらインディアカ仲間

和歌山県インディアカ協会 大新ひまわり

昭和57年、小学校のPTAでバレーボールをしていた人達が子供の卒業に伴い退部、何か楽しいスポーツがないかと思っていた時、地区に指導者がおられインディアカを紹介され、始めました。

インディアカは今では多くの人に親しまれていますが、当時は和歌山市で初めてで、我がクラブは本県でのインディアカの生みの親と自負しています。



クラブは城下町として発展した和歌山市の中心地、和歌山城の東にある、大新小学校近くに在住する人で構成しています。メンバーは夫婦あり、親子ありで年齢層は幅広く、創立以来辞める人もほとんどなくモットーは“楽しく汗を流し、交流を深め、健康づくりをすること”です。

活動は週2日、小学校の体育館で、勝つための練習ではなく、その都度くじ引きでチームをつくり、楽しい中にも緊張感もあり夫婦、親子のほほえましい口論もありスッキリ汗を流しています。またインディアカのプレイだけでなく、新年会、お花見、月見、忘年会とその年の幹事の趣向をこらした親睦会で交流を深めています。

10年を振り返りますと、平成2年の第3回全国スボレク祭に県代表として親子を含めた選手・監督5名、審判員も2名参加できたことが光栄でありいい思い出となりました。

これからもゲームの勝ち負けよりも楽しく、仲間のコミュニケーション、他のチームとの交流を重視して少しでも長くプレイし、インディアカを通じて楽しく汗を流し、うるおいのある生活を創り出して行きたいと思います。

代表 玉置延行

那覇市インディアカ同好会

那覇市インディアカ同好会は、沖縄・那覇市に所属する10のサークルで組織されています。

会員は20～70代と幅広い年齢層からなり、約230名となっております。平成2年3月31日に発起設立しまして今年で4年目を迎えており、5年度には、那覇市レク協会にも加入し、那覇市のレクリエーション活動に参加したり協力したりしています。

同好会の主な活動は、毎年12月に年忘れ親睦インディアカ大会兼懇親会と、5月に総会兼親睦インディアカ大会と新旧役員顔合せ懇親会等があります。

この同好会の特徴は、60歳代の方々が約60名いらっしゃるもので、大会のときも男子、女子、混合チームの他に熟年チーム（55歳以上の6人制）を設けていることです。もう一つは、親睦インディアカ大会終了後の懇親会では、10のサークルのそれぞれ工夫をこらした余興を披露してもらいます。また、熟年の方々の18番大会（寸劇、踊り）や若い方たちのカラオケ大会等で1日を過ごし、お互いの親睦をはかっております。その日は、同好会の会員の皆さんにとっては年に一度の楽しみの日でもあります。

満名美智子

社団法人化基金

ご寄付いただいた方々（前号に掲載されなかった方）

ご協力ありがとうございました

- 宮城県 安達功
- 茨城県 鈴木蔚
- 埼玉県 庄和町 I A
- 東京都 福岡富美子 久保桂子 国持良子 遠藤千枝
- 静岡県 鈴木位志
- 大阪府 吉田猪一郎
- 福岡県 古賀正美

（敬称略）

INFOMATION

今回から新しいデザインにしてみました、
いかがでしょうか？

さて来年度は、5月の記念大会、9月のオールジャパン
レディース（埼玉・秩父）大会が決まっています。

たくさんの方々の参加をお待ちしています。

6年度の詳しい予定は、次号でお知らせします。（T）